

文化審議会文化政策部会第20回発表「国際交流等の推進」2005・11・8 青木保

1. 「グローバル化と情報化の時代における国家・社会・地域」

「ソフトパワーとは（国際関係において国や政府）が自ら望むことを、他の勢力（国）が同じように望むことによって、好ましい結果を手にする能力。強制よりも自己が持つ魅力によって目的を達すること。ジョセフ・ナイ。」

「パブリック・ディプロマシー」「クール・ブリタニア（ゴーイング・パブリック）」

2. 「文化外交」の必要性・外交空間の拡大

外交の対象の多様化：メディア、集団・社会、個人、地域

自国についてのイメージ向上

紛争回避のための異なる文化・文明間の相互理解と信頼の涵養

全人類に共通の価値や理念の育成に向けての貢献

3. 「文化外交の推進に関する懇談会」報告「『文化交流の平和国家』日本の創造を！」

基本理念：発信、受容、共生

発信：文化発信を通して「21世紀型クール」の提示

受容：文化創造の場の育成につながる「創造的受容」

共生：「多様な文化や価値の間の架け橋」としての貢献

4. 「文化交流推進体制の確立」

整備と確立：対外文化政策の中核組織の整備と組織の確立；外務省・文化庁および関係省庁間の連携と組織化；国際交流基金の役割；民間（企業や大学・研究機関、各種団体、NGO/NPOなど）との協力体制の強化。協力・派遣などにおける「窓口」や「執行機関」の整備・簡易化

5. 対外文化機関・文化施設の拡充と充実

先進国（G7）と較べてのあまりの貧しさ、少なさ。少なくとも世界の主要都市には「日本文化情報センター」の設置。広報的情報発信受信活動と文化交流の促進を現地で行う文化交流・文化協力のネットワークを作る。

6. 「国際文化交流に役立つ人材の育成」

「文化交流」担当の専門者の養成とその自立した地位の評価を行き渡らせる

7. 「東アジア」における積極的な文化協力・文化交流

相互理解の促進と友好関係の強化：文化交流の果たす積極的な意味と効果